

戊六月十四日伺濟

別段御手當

一日金壹分永百八拾八文ッ、

鑄物師

壹

人

測量器師

壹

人

大工職

壹

人

鍛冶職

壹

人

戊六月二日伺濟

御手當一日永六拾八文四分

作料一日永百三拾文

別段御手當一日永百六拾六文六分ッ、

右ハ和蘭國に御詔相成候蒸氣御軍艦製造中諸術爲研究同國に被差遣候者共御手當等之義出立之節凡二十五ヶ月分御渡相成去戌六月中咸臨丸御船へ乗組一旦長崎表に罷越同所在留之蘭人等へ引合向相濟和蘭便船ニ而出帆仕候處同年十月六日右航海中東印度海ハスバルスタヲト申候海峽ニ而沈礁ニ乗當遂ニ破船及ひ辛くて助命仕候得共

手廻り品等沈沒いたゞ僅に御用物之類取纏め小船ニ而近邊小島へ立退土人を雇ひ船中御書籍其外衣服等聊海水中より取揚ケ候得共いづれも潮水ニ浸染し更に難用立其後漁船を雇ひプロレバルと云島之内へ移り夫より尙又ハタビヤ港迄雇船ニ而相越候得共異域旅中之災害更ニ救助之手立も無之御國出帆之節用意致し候金子衣類等悉沈失仕一同難澁悲歎仕候趣書狀を以申越候義ハ兼而申上置候通之義ニ而天災とハ乍申實は惘然之次第就而ハ此後之手當向等不差遣候而ハ海軍其外諸術研究ハ勿論彼國へ滞留仕候義も難出來義ニ而譬彼れ之助を乞滞留仕候而も最初より衣類日用之貨幣等ニ差支候様ニ而ハ御不体裁之上彼れ之蔑侮免れかたゞ御國辱ニも相成詰り研究之功も奏しか

たぐ左候而ハ格別之思召を以被差遣候詮も無之且罷越候者
共事情推計候得ハ如何ニも惘然歎歎奉存候間最前御渡相成
候御手當之月數ハ未タ相満不申候得共尙最前之振合を以二
十五ヶ月分ツ、此度御渡御座候様仕度奉存候尤差送方之義
ハ長崎在留之同國アゲントに相托一爲替ニ仕差送候様可仕
と存候間右等之事情御憐察被成下早々御渡御座候様仕度依
之御勘定奉行に之御斷書相添此段奉願候以上

亥六月

覺

願之通ニハ難被及御沙汰一同に尙二十ヶ月充御渡之積
斷書取調直一可被差出候尤金子差送方之義ハ伺之通可

被心得候事

開陽艦勘定書

千八百六十六年使を以て申上候

スクル一フ器械之蒸氣仕掛コルフエツト船號開陽丸御軍
艦之義ハ

日本政府之御頼ニ依而和蘭交易會社之者共ドルドレクト
の造船匠長セ名ギツプス氏及ひ其倅之造船場に於て打立
猶ドルドレクトふ於て十分乗組之人數を定め船機を以
イ、ア、エ名デナウキス其船將となりて横濱表に差送申候右
御船諸器械其外附屬品等左之通ニ御座候
コルフエツト形スクル一フ器械蒸氣軍艦壹艘

○一船身之部

造船匠長セ、キツプス及び其子と致契約候入用之義は既ニ千八百六十三年五月八日出島表在留和蘭交易會社之アゲント方迄書狀を以て申上候其内に認御座候通り圖面之如き製作之入用		八十三万一千二百元	
千四百六十號	右同匠に差遣候分ニ而右圖中に載セ無之種々工作の入用	二万九千三百三十六元十九	
千四百五十八號之内	柔軟なる銅杆及び右圖中に無之銅輪二ツ	四千四十三元七十五	

○二船具之部

四百五十三號	ウエヂニューウエ、コール名及其子に綱具の價	一万二千五百元	
四百九十二號	同	二百十元八十八	
前紙のノ高一万二千七百十元八十八		八十六万四千五百七十九元九十四	
右三言ノ八十六万四千五百七十九元九十四			

○三蒸氣器械

二百四十六號	同	千六百十五元四十一	
四十三號	同	四百八元七十	
四百四十二號	フハンデル、タラツペン、カルク、ローク、ユツテ名綱具及鐵條	二千四百三十八元	
千三十號	ゴロフスメデリー名鐵工之物之價	四千三百四十六元五十五	
	ムギツプス、プーセー名滑車之價	六千八百五十二元	
三百號	海軍之役々其外等	百五十五元八十一半	
	同七日毎の給料ウエーキ、ローン	二千九百九十九元三十一	
此口ノ三万一千五百二十六元六十六半			
和蘭蒸氣會社フリツレンヘン、のム、ベ名及ヒド、フハンヘー、ル名との契約は既ニ千八百六十四年二月十五日出島在留之		三十万七千四百元	

アグメント方迄書狀を以て申上
候三百五十馬力蒸氣器械一式
之價其内ニ認御座候通り圖面
之如くニ而

前紙之
ノ高 三十一万七千四百元

八十九万六千一百〇六元六十
幾半

百八十五號ヨリ
千四百五十四號迄

潮水蒸溜之器械

八千〇〇元

其余諸品

鐵製水箱
數三十三千四百九十五元、二十
大器通
入之器二千七百五十六元、四十七
機壹
長サ五百三十二フートの紅銅製水及汽
之ペーパは八砲臺其外之火消
道具の
爲之用四千七百五十二元、九十五
具
呼管 スプレーキ 七百六十七元、三
ガイス 十五
之諸具
バルレイ、ボムブ三百十八元、
十八

此分
ノ二万二千〇九十〇元十三

千五百二號

呼管 スプレーキ
ガイス 之價

八十四元、九十五

千四百五十六號

別段蒸氣室之爲之價

一万三千〇十二元

○四 バル ラ ス ト 重 錘

九百五十三號

ペン子及ボウドイン
内元は返したる分

六千六百四十三元、九十九
一千〇八十七元、七十引

此
ノ三十五万〇五百八十七元〇八幾

前
ノ五千五百五十六元、二十九

○五 滑 車 類

千七十二號

ム、ギツプスフセー

一百九十二元、三十五

五百六十八號

同人

一千〇六十八元、五十

此
ノ一千二百六十〇元八十五

前紙之
ノ高

百二十五万三千五百十〇元八十二幾半

○六 帆 并 帆布

千百號

ア、サンドヘルグ名

二万〇九百三十九元

千九十九號之内

同人

三千六百六十〇元五十九九半

千四百六十六號之内

同人

八十四元、六十

○七 錨 并 錨 索 之 鎖

六百六十九號	ゴロフス、メデリー	一万三千三百十六元、〇一	此口 二万四千六百八十四元十九半
六百八十六號	同人	一千七百十四元、〇四	
千四百五十八號之 内	セ、キツプス及セー	九百九十八元九十一	

○八 綱 具

四百五十九號	ウエヂニューウエ、コール及其子	四千〇二十八元七十六	此口 一万六千〇二十九元九十六
五百九十一號	同人	七十四元、十二	

○九 火 消 器 械

六百九十六號	セ、キツプス及其子 ブランドスポイト之價	八百二十六元、七十	此口 四千二百〇二元八十八

○十 書 冊 地 圖 測 器

八百九十四號	ハ、ミユルデル名消防器械	二百五十九元	前紙之 高 此口 九百八十五元七十
八百十八號	ゲブルーデルス、フハン、ケレ ーフ人名	五百二十九元、九十四半	
千四十號	ウエヲニューウエ、エン、ヒュルス ト、フハン、ケウレン人名	四千五百五十六元、三十	
六十六號	ホハウ	一千四百九十二元	
千四百一十一號之内	ゲブルーデルス、フハン、ケレ ーフ	十二元、三十	此口 六千五百九十〇元五十四幾半

○十一 旗 旒 并 旗 布

千百一號	ア、サンドベルク	一千一百五十一元	十八
千九十九號之内	同人	四十九元、〇七半	

千四百六十六號之内

同人

五十六元

此
ノ一千二百五十六元、〇七半

○十二 ハン グ マ ッ テ ン

九百八十號

イ、ヒツセル人名

一千三百十二元、五十

○十三 日 用 諸 具

ア、ノウ プ レ ッ シ ャ
ホ、イ ス ク ラ イ ド

六百九十六號之内

セギツプス及びヒセー

九百十〇元

千十三號

ケブル―テルスホルリキス

二千二百二十二元、二十四

千十七號

ヒリツプナ

八百七十二元、七十七

千二十五號

ハ、ベ、テイ ト

一千〇五十三元、七十

五百八十四號

メイニス及びスミツツ

二千〇九十五元、五十七

前紙之

ノ高八千〇三十四元、二十八

百三千〇万八千四百七十二元
六十八號

六百八十號

同人

四百十六元、三十

千三百四十六號
千三百七十九號

コービル及びコー

一百三十二元

ハ、ウ、フ、エ、ス

四千五百四十三元、二十六

此

ノ一万三千二百二十五元、八十四

○十四 木 製 鐵 製 諸 物

六百九十六號之内

セキツプス及び其子

六千五百八十三元、〇八

千四百七號

同人

五百十九元、八十五

千四百五十九號

同人

五千四百五十八元、〇四半

千四百六十四號

同人

九十五元、五十五

此

ノ一万二千六百五十六元、五十二幾半

○十五 食 料 飲 料

千二百五十八號

ハルトフ及びデーゲル

三千二百七十七元、九十

千二百五十七號

レウクリン及デニューケル

一千四百六十四元、六十

千二百三十五號	ペンパス及コー	一千三百八十六元四十	
千二百五十九號	ボル及デューロツプ	二百四十五元六十八	
千七百十四號	フハン、ホルレンホーヘン及 コー	四百四十七元五十	
千三百二十二號	ブラウン及ヘイチ	二百三十三元八十六	
千二百六十四號	レブ、レフト、トールセイ	四百二十九元五	
千二百八十號	テ、モーセル	二千〇四十四元	
前紙之 ノ高九千五百二十八元九十九			百三十三万四千三百五十五元 四角半
千二百十四號	ア、ア、ニーウカムフ	六十四元十五	
千二百八十五號	ロツヘンバツク及ハンテルホ ーブ	一百一十一元五十	
千三百四十三號	ウエイナンドトツキンーグ	一百二十八元九十	
千三百四十二號	イ、ア、フハンスタラーテン	二千三百二十三元六十五	
千二百八十號	ハ、イ、ウエイスマン、ベス	二千八百四十九元三十五	

千三百四十四號	イ、ハ、テウエレホイシェーイル コー	四千〇二十六元六十二	
千三百〇七號	デチルクセン、イ、フセン	二千〇三十九元三十七半	
千四百六號	コーレンスコーフの社中	七百十〇元七十五	
千四百十號	デチルクセン、イ、フセン	一百五十六元	
千五百五號	イ、ア、フハン、スタラーテン	一百五十六元七十六	
	飲ミ水	二百一十一元七十五	
此日 ノ二万二千三百〇七元七十九半			
○十六藥種 及 捲布			
千三百四十號	イ、モウトン及其子	一千百四十三元二十四	
千五百二十五號	イ、ポフル	九百六十五元三十	
此日 ノ二千八百〇八元五十四			

○十七彩具 フルン

五百九十二號
オヘルス及フエーデル

前紙之
ノ高

七百三十二元五十
百三十六万〇二百〇三元八十八幾

○十八石炭

千三百三號
イ、カルシア

二千四百六十三元三十八

千五百三十號
チーデマン及メインスセン

三千一百二十二元七十七半

ステーヘンス

八百九十八元

此
計

六千四百八十二元十五半

○十九砲隊及兵器類

二百十七號
テ、コリュツフ迦農之價

四万二千九百二十七元

五百五十七號
同人 同

十〇万〇五百三十三元七十五

九百九十九號
海軍役々雜費

三百五十五元二十三

同 同

七百〇九元六十二

同砲隊用具并兵器類	九万三千八百九十八元九十	
九百七十號 ベ、デ、フハンレースウエイキ	一百二十三元八十六	
八百四十號 同人	三千〇四十二元三十三	
千五十號 ム、キツブス、フセン	九百三十〇元四十八	
千九十九號ノ内 ア、サンドヘルグ	六十六元六十	

此
計
二十万四千五百八十六元七十七

○雜費

ハ、ホイゲンス名監督ニ付旅中 及逗留之入費并ニ同人此事全 体之導きニ付	六千一百二十二元六十五	前紙之 ノ高 百六十万九千一百七十二元、 八十幾半
ウ、テ、ブレメリー名砲隊并裝 兵之監督ニ付逗留及旅中之入 用	三千九百四十二元六十	
フハンデンビュルグ及パツケ ル名帆布之監督ニ付	三百五十六元六十二半	

海軍之號令官 コマンダルベル
タント
ス、ホイスケン名造船之監督ニ
付

一万〇四百十八元、四十

此
二万〇八百四十〇元、二十七號半

○給料 メラクテ
メント

イ、ア、エ、ダナウキス千八百六
十六年十一月迄之分但十一月
分共

四千八百七十五元

イ、ウイットツブ、コーニンフ
右同斷

二千二百〇〇元

グ、ベ、ハルデス同年十月迄之
分但十月分共

二千二百〇〇元

イ、ア、セ、スコツケル右同斷

四百三十七元、五十

同船艤之給料

五百〇〇元

前紙之
高一万〇二百十二元、五十

百六十三万〇〇十三元、〇八幾

同族中及逗留之入用

三百三十〇元、五十二

大銃手 コンスウ、ヘホイセン名
タイフル
人別改之節迄

百五十元

此
一萬〇六百九十三元、〇二幾

○乗組

人別改之節之費用給料前渡
其外共

九千六百八十九元、八十

○食料

ドルドレクート逗留中

二千百八十六元、四十一

プロウウエルスハーヘン逗留
中

二千五百四十八元、八十一半

フリツシンヘン逗留中

三千八百三十三元、七十三

此
八千五百六十八元、五十五半

○其餘種々之費用

錦及錦之鎖内地運送並瀬取

五十七元、二十五

迎農右同断	一千〇五十〇元六十四	
砲隊用具	四百三十三元十三	
内地運送請負之謝銀并防火之謝銀		前紙之 高一千五百四十二元〇二 百六十五万八千九百六十四元 八十五幾半
砲隊諸具	四百五十〇元三十	
蒸氣器械	一千九百十〇元	
帆	三十七元七十五	
日用諸具	一百二十六元五十	
船具取附之賃銀並船之會計万端濟迄ニ	七千九百八十七元〇二	此日 四千〇六十五元五十七幾
入用經營并圖取之會計	六百五十〇元	此日 八千六百三十七元〇二

○贈物 并 給料 ガラチヒ
カチー

セキツプス及其子	二百〇五元	
フハンオールドト	四百七十五元	
プロウウエルハーヘンアグ ント官	一百〇〇元	
給料 ガラチヒ カチー	二百〇〇元	
フリツレンヘンのアグント官	二百〇〇元	
海軍附書記方	一百〇〇元	
證書其外此類之事之入用	五百七十四元五十一	
飛脚鋪テレカラフ入用并其外種々之雜費		前紙之 高 百六十七万三千三百二十一元九十五幾半 四百十二元〇七幾半 以上の高 百六十七万三千七百三十四元〇三幾 二十三

○船機 及 蒸氣器械

組立請負	和蘭ニ於て 六十二万七千四百元 此三厘五毛之割	二万二千九百五十九元	
請負謹書	噸噸に於て 五万七千 二厘五毛半ノ割 千二百八十二元 「ル」ハ「ボンドステ ル」リシク英國貨泉 の名稱 「ル」を和蘭の十一元八十錢の比例 一て六十七万二千六百元ニ當る 請負書の印紙七十一「ル」〇五 此二〇 「ル」一千三百五十二「ル」一五 「ル」を和蘭の十一元八十二錢半之 比例ニ一て 船機一三〇〇〇〇〇詳未	四元	一万六千〇〇八元〇九錢
○航海請負			
	五十一万九千五百五十元 二厘二毛半之割	一万二千六百八十九元八十八	

此惣數の 請負謹書中には是迄ニ	五元	前紙之 高四万九千六百六十五元九十七	此を前紙ノ惣ノ高に結ひ 百七十二万三千四百〇〇元〇
既に拂濟ニ相成候金貨及證書 に従ふて猶此後拂ふへき金貨 但毎月七 千元ツ、并船將デナウキスの手 に渡すへき殘金二千五百元皆 籠居申候 吾會社之 五厘ノ割ニテ			八万六千二百七十元〇
欠文 詳未	高百七十万九千五百七十元		
紀元千八百六十六年十二月廿 四日 アムステルダムに於て 決定之寫書之爲に	和蘭交易會社 和蘭交易會社之アゲント フハン、コルセント ベルゲンダル		

和蘭國に御詔船製造中諸術爲研究被差遣候者之内留

學之儀ニ付相願候書付

御軍艦奉行

長春院養子

伊東玄伯

御醫師

洞海梓

林研海

和蘭國に御詔相成候蒸氣軍艦追々成功之運ひ相成此節より凡半々年程も相立候ハ、皆出來可相成趣就而者右製造中諸術爲研究被差遣候者共之内書面兩人義も右御用濟之上ハ一同歸朝仕候筈ニ御座候處いまた醫術充分成業之場合ニも至り兼候義ニ而歸朝之上ハ御國於て其筋學術等傳習仕候事御軍艦組等とも事替り尙更多事ニ付今二三ヶ年

も引殘學習仕候方可然旨學師よりも申立同人共於而も是迄之御恩命ニ對し修業不十分歸朝仕候義恐入候ニ付學師申立之通引殘留學之儀奉願候趣申越候間書面兩人義ハ御詔船皆出來之上外役く歸朝之期ニ不拘願之通被仰付候様仕度奉願候

外國奉行支配期役並

吉澤源次郎弟

御軍艦組出役

赤松大三郎

右大三郎義前同斷御用ニ付和蘭國在留仕元來測量主學之者ニ御座候處右御用中造船學等兼學罷在候ニ付前書玄伯研海等同様之儀ニ付學科成業迄二三ヶ年程留學仕度段當人願書今便差越候間是亦願之通留學被仰付候様仕度奉存候

右之趣和蘭國在留之御軍艦頭取肥田濱五郎并取締役内田恒次郎等より此程書狀を以申越候ニ付勘辨仕候處書面三人之者義ハ業前熱心勉強仕候志より苦學とも不相厭右様留學之義願出候義ニ而追而成業之上ハ拔群御用立可申と見込罷在僅兩三年之差ニ而十全御役ニ可相立者共修業半途ふて歸朝爲仕候而者出格之譯を以被差遣候御趣意も貫通不仕義と残念之次第ニ付當人共願之趣至當之義と奉存候間何れも前文申上候通留學之義被仰付候様仕度尤御詔船出來期限も差迫彼地出帆前御沙汰之趣不申遣候而者行違不都合相成候間急速御下知御座候様仕度此段奉願候以上

丑六月

下ケ札

本文留學之義奉願候伊東玄伯外貳人之外陸軍兵書取調出役原田吾一義も同様留學之義奉願度段申越候得共吾一儀ハ兼而御沙汰之趣を以外國奉行より呼戻一之義先達而和蘭國に申達候ニ付同人儀ハ相除申候

和蘭國引殘留學仕候者に御渡可相成洋銀之義ニ付申上候書付

海軍奉行並
御軍艦奉行

和蘭國に御詔相成候蒸氣軍艦製造中諸術爲研究被差遣候者共之内御軍艦組出役赤松大三郎并醫師林研海伊東玄伯右三人之者御詔船成功之上彼地出帆之期限より尙兩三年

彼國に引残り學術修業仕度旨相願候ニ付其段相願候處願
之通可相心得旨被仰渡候就而者御詔船開陽丸も當七月頃
ニハ彼國開帆ニも可相成趣左候得者前書三人之者ハ其頃
より兩三年之間彼國滞在習學罷在候ニ付用意洋銀御渡無
御座候而者如何様之差支可有之哉も難計殊ニ醫術之義ハ
書籍并稽古道具等多分入用ニ付業前稽古之ため無據書籍
其外道具類買入候節兼而被下置候御手當金而已ニ而者差
支候義ハ眼前ニ有之去り迎右書籍并道具類買入候義ハ行
届兼候趣申候ハ、教師に對し御体裁ニも拘り且夫う爲し
修業充分ニ行届兼候様ニ而者折角留學被仰付候詮も無御
座候間用意として洋銀貳万八千枚御渡御座候様仕度尤差
送り方之義ハ是迄之振合を以神奈川奉行申談爲替ニ仕り

差立候積御座候此段申上候以上

寅三月

覺

書面之趣ハ難被及御沙汰候事

和蘭公使より差出候書簡和解

千八百六十五年第八月廿九日

神奈川ニおひて

江戸

外國事務執政閣下ふ呈を

去ル第七月三十一日附第九十三號の書翰ふ追啓して余謹

而台下は左條を告ぐ

和蘭ふて建るストームコルヘット船の砲備變革せしふより十万五千ギユルデンの高を増せり恐惶敬白

日本在留和蘭ポリチーキアгент兼コンシユルセネラー

ドテカラーフアンポルスブルーク手記

和蘭國に御詔之御軍艦に御備相成候大砲之義ニ付申上候書付

海軍奉行並
御軍艦奉行

和蘭國に御詔之御軍艦に御備付相成候大砲之儀都合貳拾六門之内六挺筋入相成其餘ハ平常之鐵筒貳拾挺御据付相成可申答之處近世追々筋入大砲之利專一ニ罷成折角堅牢

十全御製造之御船僅六挺之筋入相備り候耳ニ而者實地之御用立満足不仕候ニ付彼地在留之支配向一同評議仕右備方當今海戰之衆論和蘭海軍士官數人に質問仕并大砲方惣督フレメリトに屢應接之上彌六挺ニ而ハ全備不仕段評決仕候ニ付其筋に相掛合拾貳挺相増都合貳拾六挺之内拾八挺筋入残り八挺平常之鐵筒相備候様申談候ニ付右筋入筒之義ハ壹挺ニ付四千七百五拾ターレル相掛り尤右之内より鐵筒之代を相減候趣右増金之義ハ追而商社方より申上候積り右取計方之義相同御沙汰相待可申答之處追々御成功ニも罷成御下知之上申付候様ニ而ハ遠路相隔時日間ニ合兼候間一同評議仕取定仕候旨彼地在留之肥田濱五耶内田恒次郎より申越候此段申上置候以上

丑七月

和蘭公使に可被差遣候返簡案

和蘭コンシユルゼ子ヲール兼ポリチーキアゲンドエキセルレンシー

ドテガラーフアンボルスブルーク

貴國第七月三十一日附書簡之追啓として第八月二十九日
附書簡を以兼而貴國に製造頼置候軍艦之砲備變革せし
より拾万五千ギユデン之高を増しある趣被申越委曲承諾
せり右回答および候拜具謹言

慶應元年丑九月廿日

水野和泉守花押

慶應三丁卯年五月二十日織田對馬守勝安房守木村兵庫頭等

横濱港ニ於テ和蘭公司ボルスブルーク氏ヨリ開陽艦ヲ受取
タリ式了テ廿一發ノ祝砲ヲ放ツ艦ノ裝置其他ハ船譜ニ出セ
ルヲ以爰ニ略ス

第二百一六號

千八百六十七年第五月廿五日江戸ふ於て

江戸海軍奉行勝安房守閣下ニ呈す

日本ノ軍艦開陽丸此地ニ航し來りたる荷蘭海軍の士官
輩余に告げて曰彼等日本政府の職役汝勤むるに一年若く
ハ數年の間如何ある給料汝受くるきや之汝書上くること
甚六ヶ敷けれども何卒日本政府の採用ふ至らんことを希
へりと

是次以て余彼等の書き上げ中よ於て日本政府是次授けて
彼等の職役よ應すへき給料の最も廉價ある者を茲に擧げ
たり是日本政府より授くる給料餘り廉かれこれと斷り
又相當より高價あるハ日本政府ふ之次拂ふ次止むるゝ爲
あり

上ニ云へる士官輩の職役よ應すへき給料ハ其最も廉價あ
る者左の如く但し住居ハ船上にあるも陸上にあるも勝手
たるへい

海軍ロイテナント第一等デナウクス一ヶ月六百ドルヲル
但一ヶ年より少うるへからハ二年目三年目ふ至れハ一ヶ
月よ付五十ドルヲル宛減すへい

海軍ロイテナント第二等コーニング一ヶ月五百ドルヲル

其後前ふ同く

蒸氣器械方士官ハルデス一ヶ月四百ドルヲル但一ヶ年限
の定あり

醫官スコツクル一ヶ月三百ドルヲル但一ヶ年の間二年目
を一ヶ月ニ付百ドルヲル宛増すへい

右四人の者ハ職役の期限を過くるときを第一等旅客とあ
りて何れの飛脚船ふても勝手ふ荷蘭へ歸ることを得へい

コンスターブルマヨール 砲術先生ヘクホイセン一ヶ月百五十

ドルヲル但一ヶ年の間二年目ハ一ヶ月二百ドルヲル宛

蒸氣器械方スレッテ一ヶ月百五十ドルヲル但一ヶ年の間
二年目ハ一ヶ月二百ドルヲル宛

鍛冶頭メイセル一ヶ月百五十ドルヲル但一ヶ年の間二年

目ハ一ヶ月二百ドルヲ宛

右三人の下等士官ハ職役の期限過くる時ハ第二等旅客と
ありて何れの飛脚船ふても勝手に荷蘭ヲ歸ることを得へ

ボーツマン 舟一ヶ月四十五ドルヲ帆前船よて勝手ふ荷
蘭へ歸ること欲得へ

マトロース 水一ヶ月三十ドルヲ勝手よ歸國すること欲
得さるへ

其他ボーツマンとマトロースとよハ小遣欲遣すへ
右等の者よ小遣欲遣と事をデナウクス君ふ委任すれハ日
本政府の爲ふハ最も良あるへ 恐惶敬白

日本在留荷蘭ポリチーキアゲンド兼コンシユルゼチラール

ド、テ、カラ、ウ、ハン、ボルスブルーク

杉田玄端譯

卯五月廿七日

ボルスブルーク

一錦 五卷

一孔雀詩畫料紙硯箱 壹

代金三拾六兩貳分

和蘭商社首長

一錦 五卷

一櫻詩畫料紙硯箱 壹

代金五拾貳兩

コンシユルタツクは

一大紋純子 五卷

一鶏詩畫料紙硯箱 壹

代金貳拾八兩

デナ―は

一中紋純子 五卷

一松竹梅詩畫文庫 壹

代金三拾八兩三分

コ―ニシクは

一紋純子 三卷

一獅子牡丹詩畫文庫 壹

代金拾八兩三分

ハルデスは

一繻子 三卷

一孔雀詩畫料紙硯箱 壹

代金拾貳兩三分

醫師は

一繻子 貳卷

一純子 貳卷

下等士官十四人

一白銀拾五枚ツ、

右ハ開陽艦無滯着船且生徒周旋等之爲御謝物被下候事

慶應元丑十一月十五日神奈川奉行より差出せし由ニ而同
廿八日江戸表より大坂に廻りニ成りニ付寫置

航海

日本コルヘットフジヤマ船日本へ向ケ出帆并右船之明細書

日本七月十一日
西洋九月二日

昨日月曜日新蒸氣コルヘット船長エツバレット名日本へ

向けバツテリより開帆リヲジャ子一口名地喜望峰并香港

ニ立寄夫より大君之海軍所に直チに進むへ

右船ハ帝國日本政府之爲メ日本在留のアメリカミンス

ルレズイテントの命を経合衆國政府の免許を以て船主シ

ヨ―セフゼ―コムストツクの検査ニ而當城下之ウエスト

ルウエルト暨ハツシニよりて製造ある也右船長サ貳百
七フ―ト巾三十四フ―ト船の深サ十五フ―トにて船脚
水ニ入る事只十一フ―トなり

右船ハブリグ形ニ装ハハウスブリット船頭ニ而帆をシフ

右の柱に繼フライケングジブルム又右の柱に繼あり都而

第一等軍艦の作りあり其速ある事蒸氣の力計にて眞之

測量ニ而凡三十三ノットを得たり我國海艦目錄中幾多の

遅き船ニ代へ右船の如きもの次兩三艘を有せざる事長大

息あり

フジヤマの武器三十ポントのバロツト自在砲一門船頭ニ

在り三十ポントのバロツト砲二門船頭の砲あり百ポント

のバロツト自在砲中央ニあり九寸のダルクレンセルコン